

第4回テーマ

今後10年の市民活動を考える

これからの10年間の市民活動を考えるため「次世代」をテーマに、今後の市民活動を担っていく方々と、次世代に活動を繋げていく取り組みをして来た3団体にお話していただきます。



当センター10周年に向けて、仙台の市民活動の歴史を俯瞰し、次のステップへの礎とするために、仙台で活躍されている市民活動団体に全5回、5つのテーマでお話をうかがいます。

座談会では、その内容をダイジェスト版として掲載し、詳しい内容は10周年記念誌として発行する予定です。

■活動紹介と活動のきっかけ

新川 団体の紹介と活動を始めたきっかけを合わせてお話しください。

立岡 ワンファミリー仙台は2002年4月から路上生活者の自立支援を行なっています。毎週月曜日の朝7時にホームレスの方と一緒に「ゴミ拾いをして、それに参加した人に朝食を提供しています。また民間のアパートを借り上げ、ホームレスの受け入れも行なっています。

この活動を始めるきっかけは、新宿中央公園のホームレス支援を行なっている人と出会い、自分も何か出来るかなって思っただけです。でも、二の足踏んですぐには行動に移せなかつたんです。そんな時、交通事故に遭い「このまま死んでたら人生後悔したな」って思っただけです。じゃあ死ぬ気だったら何でも出来ると思

って、(特活) 仙台夜まわりグループさんの夜回りに一回参加してみました。どんな活動をしているかを知り、自分でもできるなと分かったので、週一回夜回りを始めました。夜回りをする中で信頼関係ができ、ホームレスの方に「どういう状況だったら、一日生きていける？」と聞いたら「朝飯食えたらな」って答えました。「じゃあ一汗かいた後、俺朝飯喰わしてやっから」と、ゴミ拾いの活動に繋がって行きました。

土屋 都市デザインワークスは、仙台をメインのフィールドとして、現場を歩き回って得たものや、様々な資料やデータなどを読み解きながら仙台という都市の将来像を提案しています。提案を深めたり、知ってもらうために、フォーラムやセミナーを開催したり、まちの魅力を伝えるガイドツアーを実施しています。

その他にも豊かな都市空間を創るための調査研究や計画立案などの事業も受託しています。行政や企業に動いている人、一般市民の人、皆が楽しめる幸せに暮らせる街を、皆でつくっていき、そのコーディネーター的な役割を担っていきたくと考えています。

この理念は、大学で建築や都市デザインの勉強をする中で研究室の先生から教わりました。その先生は「皆がハッピー」って言うってなんです。

その言葉が印象に残っていて、その理念を持ったNPO法人を、2002年に先輩たちが立ち上げたので、私も学生として活動に関わり、大学を卒業と同時に2004年から都市デザインワークスに参加しました。

中村 グループゆうは、自分たちの老後の食を豊かにしたいと考えた市民が集まって、1995年から高齢者や介護者に配食サービスを始めました。しかし、地域の中に入るようになつたら、問題を抱えて地域で暮らすににくい環境にいる人は高齢者だけでなく、多様な人たちがいるという事に気付きました。その中で、障がい児を抱えたお母さんたちとの出会いから、放課後の遊び場がないことを知り、じゃあ、そういう場所を作ろうと2001年に障がい児の遊び場「ピーターパン」を作りました。そんな出会いから始まって、地域で知り合った人の抱えていた問題に対して、それぞれの切り口でサービスを作り、賛同してくれた人たちが活動できる仕組みを作ってきました。

■活動をしているの壁

新川 活動を続ける中で壁があったと思います。今後の展開上の問題も含めて、今どういう課題に直面して

◇出席者◇



立岡学さん

特定非営利活動法人
ワンファミリー仙台
代表



土屋大輔さん

特定非営利活動法人
都市デザインワークス



中村祥子さん

特定非営利活動法人
グループゆう
代表

□コーディネーター□



新川達郎

特定非営利活動法人
せんだい・みやぎNPOセンター
理事

あられるかお話しください。
立岡 制度的な壁はありますけど、やれる範囲でやっていけば良いと思っています。むしろ、制度的な壁以上に、ホームレスの方が私たちに心を開いてくれるかっていう壁はあります。向こうから壁を取り払ってもらうために、例えば、ホームレスの人に農作業やいろんな活動に参加してもらって、人と接してもらったり、いろんな気付きを与える機会を提供しています。

ある時、異分野で活動している団体を繋げていたら、良い事尽くめだよなと思いはじめました。福祉分野だけで活動していると、その分野に関心がない人たちには広がらないんです。その為、誘われた団体には可能な範囲で参加しています。ホームレスの方を人材として紹介すると、紹介された団体は事業が回るし、ホームレスの方の気付きになるかもしれない。また、ホームレスに出会う事で、市民の目も変わってくるんです。昨年、仙台青年会議所さんの推薦があつて、環境大臣の奨励賞を頂く事になりました。壁があつて悩んでいる時に、ほっとこ褒美が来るんですよ。そうするとモチベーションがまた上がってくるんですね。

土屋 私たちは仙台の将来ビジョンを提案することを自主事業としてやっていますが、提案がなかなか伝わらないんですね。僕らの説明の仕方が悪いのかもしれないのと、情報の発信の仕方が上手くいっていないのかもしれない。きつといろいろな問題はああると思います。そこが一番の壁です。

去年、HPを使って僕らの活動を伝えて行こうと、HPの内容を刷新しました。今年は、「スタツフノート」というリレー形式でエッセイを掲載していくページを創りました。そういう時に、(特活) 仙台インターネット推進研究会が開催しているせんだい・みやぎインターネットアワードの中の「先進的IT活用賞」という、市民団体やNPOのHPに与えられる賞を頂きました。じゃあもっと頑張ろうかなと思って、続けている所です。壁にぶち当たりつつも、情報を発信することで破って行こうとしています。

新川 褒めてもらうって嬉しいことですよ。社会が、私たちの事を見てくれるんだと思える瞬間って、これからももっとやらなくてはと強く思う時ですね。さて、中村さんはどうでしょうか。

中村 まず最初に、構成メンバーが大体女性たちでしたので、活動によって夫よりも家を空ける状況に対して、自分が納得する事が出来ない

ことが問題でした。自分の活動に対して自己説明をして、自分を納得させないと人に説明出来ませんよね。社会的に女性たちが提言や行動することの意義を、自分の中で说得できるようにするのが、まず第一階段だったんです。

配食サービスを週一回行なっていた時は、みんなで折り合いをつけてやっていたんですが、ニーズが増えてきて、毎日やらないといけなくなってきたんです。ある時「ここが仕事場だったらどんなに良いかしら。」と言われ、ここを仕事場にする人がいてもいいなという様になりました。それから、定期的に活動に参加してくれる人には、時給を発生させました。ピーターパンを始めたときに、最初若者のボランティアを募ったんですが、ボランティアは自主的な時間の提供ですので、調整が難しく調整がきく若手のスタッフが必要になったんですが、被扶養者ではない若い人はボランティアやパートでは食べて行けない。だから、常動スタッフがピーターパンの時に発生しました。

新川 やはり活動を続けていくには、生計を立てていかななくてはいけないんですが、その辺の苦勞ってあるんですか？

土屋 今は受託事業が収入の基盤

になっっているんですが、自主事業をやりながら団体を知ってもらい、私たちの活動に共感してもらい、お金を集めることも重要だと思います。そこが上手くないかと、今後活動も続けていくのは難しいと思っています。

その為の取り組みとして、ぜひCARESに参加して異分野のNPOや企業と交流したり、今年度はまちづくりNPOを繋ぐ取り組みをしようと思っています。すでに在仙のまちづくりNPOに声掛けし、賛同を得て、皆で一緒になって活動内容について協議しているところで

立岡 路上生活経験者を二人雇用していて、一人はアパートの管理人



を、もう一人は生活保護を受けながら業務全般について仕事をしてもらっています。路上生活者はいろんな人がいますが、どちらかという管理や事務仕事の経験がない人が多いです。スタッフとしては一般の事務職経験者を雇った方がもっと効率があがるかもしれません。ただ、うちの活動では路上生活者の方が絶対的なスペシャリストだという思いがあります。うちの団体は、ホームレス上がりだからできる団体で、今後もホームレスだった方以外は採用しない予定です。

■活動を次の世代へ引き継いでいくために■

新川 中村さんは、若い方を有給スタッフとして雇用したいと尽力されていると思います。このあたり、少しお話をお伺いしてもよろしいですか？

中村 グループゆうは、ピーターパンの子どもたちと若者を会わせる場作りができると思っています。学生ボランティアは活動に参加した後すごくいい顔になるんですね。それが、高校生の夏ボラの受け入れや、福祉分野ではない大学生の参加をお願いしている理由です。障害のない社会って、福祉分野の人たちだけが一生懸命やれば実現できる訳ではなく、例えばあの子だったらこの段

差は辛いかなと、そういう事を考えてくれる建築士がいることで違っているんです。自分で感じて共感する場を与えられ続ける事が、今私たちにできることだと思います。

しかし、若者に活動に参加してもらおうと思ったとき、それを支える経済的基盤がない事に気付きました。私たちが、経済的な基盤をあまりにも度外視してやってきた責任があると思っています。私たちが被扶養者だったから、問題と感じなかった。いざ若者に任せようとしたら、若い世代の自治の為の給与が出せないのです。だから彼らに強いる訳にもいかないし、だから「自由に羽ばたいて」ってかっこよく言いたい訳です。でも、羽ばたかれたあとどうなるんだろう？って。そこが今、福祉NPOの次世代交代の時期を迎えた団体の悩みです。

新川 それが、今まで活動をしてきた方の責任かもしれないですね。立岡さんや土屋さんは、今後の展望や、活動をどう続けていくか想像してみたことはありませんか？

立岡 実際ですね、僕が今「ころっ」といったらうちの団体は潰れるなと思っています。うちの二人いるスタッフのうち、一人が倒れても潰れるとつくづく思っています。でもNPOの活動は、求められるうちは

存在意義があると思うんですけど、うちの場合はホームレスが居なくなったら必要なくなるし、それが目標だったりします。そんな開き直りもどこかにあるんです。あと、俺がやらなくてはいけないという思いを持った人が必ず出てくると思うんです。そういう人が出て来た時に、身を摘まずして逆に言えばぐんと引き上げるくらい度量は自分でも持ちたいなと思っています。

土屋 私たちの団体は10年20年後の仙台の事はよく考えるんですが、自分たちの事はあまり考える時間がないんですね。実際、少ない人数でやっているの、仕事の分担があります。その人その人で得意な事がありますから、一人でも欠けてしまうと立ち行かなくなるんですね。そうですよね、今後10年…。

新川 そうですよ。少なくとも10年先の目標があるなら、団体のビジョンや継続性も考えないと。

土屋 そういう話しは事務局のスタッフの中ではするんですが、今抱えている仕事で目隠しされて、先が見えない状況が多いです。一つのモデルとして、アメリカのプランニング系NPOの様に発展できれば良いと思います。市民とともに計画を作り実践するNPOとして行政から計画づくりの仕事を委託され、行政職員も研修派遣として受け入れる。そ

第4回 テーマ：今後10年の市民活動を考える

んな「仙台都市デザインセンター」と言える機関を運営していきたいです。今年SURF「仙台都市総合研究機構」が廃止されたこともあり、ますますその必要性が高まってきていると感じています。後はネットワークを使って異分野や同じ分野の方と交流を持つ事も、大事な事かと思っています。

■中間支援組織への期待■

新川 最後に中間支援組織としての当センターへの期待や、普感感じておられる事も含めてお願いします。

中村 私は市民社会を目指す為の、政策提言をするNPOのネットワークが必要だと思っています。

NPOの意見を束ね、集めたものを国会でロビー活動をする役割を担ってもらいたいと思います。

あとは、福祉資源の共有化を計ることが出来ればいいと思つてですね。現在は、それぞれの団体が困り込む構造の中で福祉は担われていて、すごく素晴らしい人たちがいるんですけども、社会資源となつていませんか。ネットワークをしたり、呼び掛けるのはNPOが担っていくのかと思つています。

土屋 私のきつかけは先輩でしたが、何かやりたいと思つた時にきつ

かけがないと活動が始まらないと思つたんです。そのきつかけがせんだい・みやぎNPOセンターだったり、仙台市民活動サポートセンターだったりするので、そういった人たちの受け皿になることが大切だと思います。あとはサポートセンター的な機能が、分室として、図書館や博物館の中にあつてもいいのかもしれない。活動したいな、と思つた時にすぐできる場所を提供していければいいと思います。

立岡 NPOと政治つてすごく密接だと思つたんです。今の政治家で市民派と呼ばれる人は、市民活動の市民派ではないと思う。逆に政策を提言していつて、実現の為にNPOの中から政治家を輩出させていかなくてはいいけない。吸い上げたものを政策にしたり、政治家を作っていくのもせんだい・みやぎNPOセンターの役割かなつて思っています。本場の現場の声を持った上で、事情を見てやれるんじゃないか。その役割を担っていくのが、次のステップであればすごく面白いと思つし、世の中を変えたい一歩になると思つています。

新川 直接、選挙運動をするのはNPOでは禁止されていますが、少なくともNPOの活動の中から政治を動かせるような、政策の提言を行うことはできます。広く市民や政

治家に対してNPOの考え方に共鳴してもらえよう訴え方をするのが、我々の課題でもあると思つています。どうも、ありがとうございます。

担当 加藤哲夫・内川奈津子・高橋陽佑

	制度関連の動き	仙台市の動き	座談会参加団体の動き
1995 (H7)			グループゆう設立 配食サービス開始 (グループゆう)
1996 (H8)			
1997 (H9)	人権擁護施設推進法施行(2002年失効)		せんだい・みやぎNPOセンター設立
1998 (H10)	特定非営利活動促進法施行		せんだい・みやぎNPOセンター法人格取得
1999 (H11)		仙台市民活動サポートセンターオープン	さろん・ど・ゆう開始 (グループゆう)
2000 (H12)	人権教育及び人権啓発の推進に関する法律施行		グループゆうNPO法人格取得 「勝手連まちづくり応援団」設立 (都市デザインワークス)
2001 (H13)	認定NPO法人制度施行		放課後クラブ「ピーターパン」を開設 (グループゆう) 「せんだいセントラルパーク構想」発表 (都市デザインワークス)
2002 (H14)	介護保険法改正 精神保健福祉法改正		都市デザインワークス設立 ワンファミリー仙台設立 都市デザインワークスNPO法人格取得
2003 (H15)	特定非営利活動促進法改正 認定NPO法人制度改正 支援費制度		介護保険事業ケアプラン ホームヘルプ開始 (グループゆう)
2004 (H16)			支援費制度開始 (グループゆう)
2005 (H17)		仙台市路上生活者等支援センター開所	「せんだいセントラルパーク・デザインセンター」期間限定開設 (都市デザインワークス)
2006 (H18)	障害者自立支援法施行 認定NPO法人制度改正	宮城野区稲ヶ岡公園内ホームレスの強制退去実施 仙台市民活動サポートセンター 移転オープン	ワンファミリー仙台NPO法人格取得
2007 (H19)			ホームレス住居支援施設を開設 (ワンファミリー仙台) 地域活動支援センター開所 (グループゆう) キッチン歩 歩 開所 (グループゆう)

団体紹介

◆特定非営利活動法人ワンファミリー仙台

路上生活者を対象にした就労支援、住居支援等の活動を展開していき、生活保護に極力頼らない方法での就労ならびに自立支援を目的として活動している。

◆特定非営利活動法人都市デザインワークス

市民提案型のまちづくりを実現するため、まちの将来像を提案し、市民・企業・行政の皆と共有しながら、その実現に向けて様々な活動をしている。

◆特定非営利活動法人グループゆう

地域に拠点をもち、各々の自主性を尊重し合いながら、ハンディキャップをもつ人やその家族の自立していくことを目的として活動している。